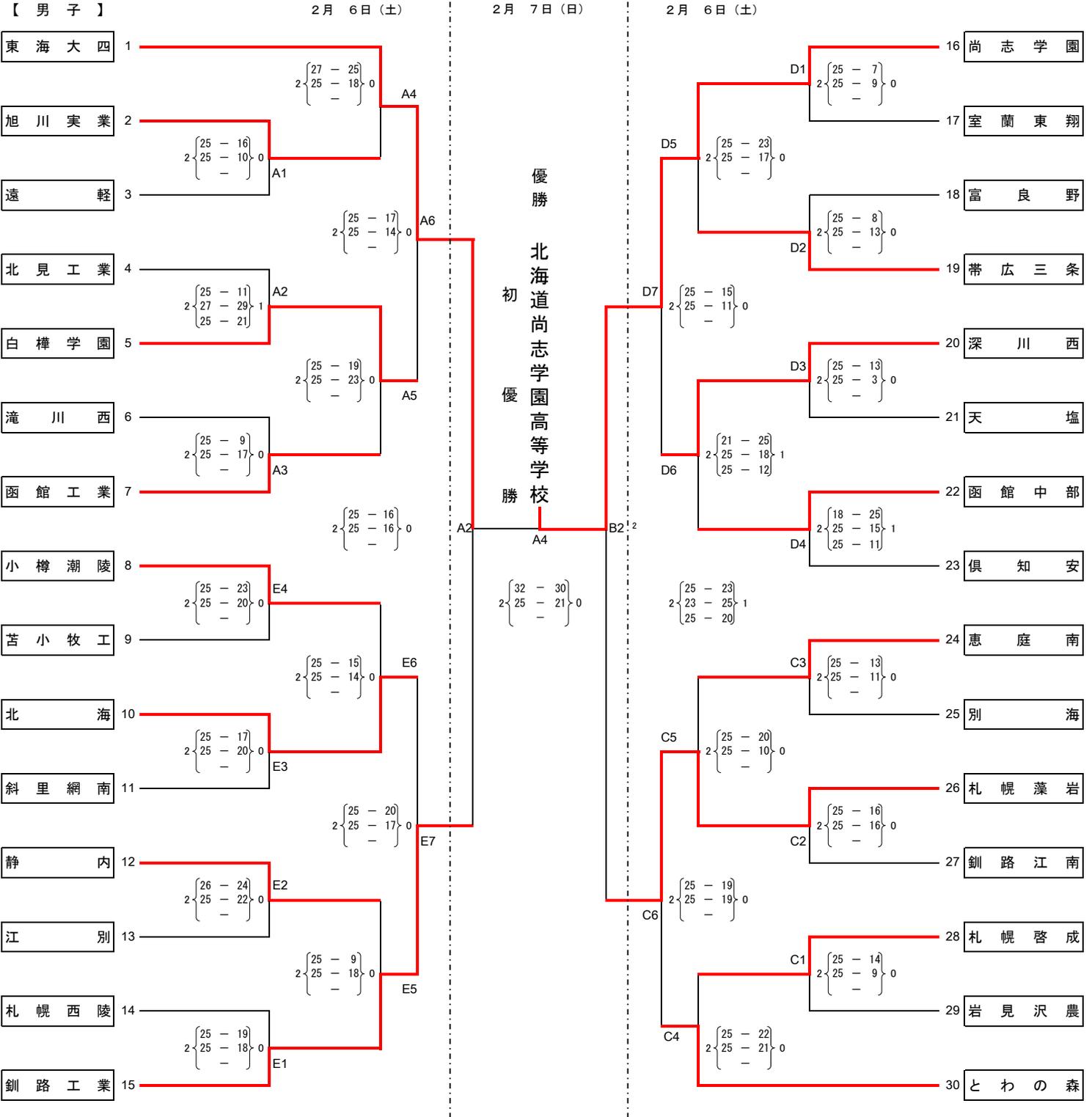


大会名 第11回北海道高等学校バレーボール新人大会  
 日時 平成28年2月5日(金)～2月7日(日)  
 会場 帯広市総合体育館 白樺学園高等学校体育館

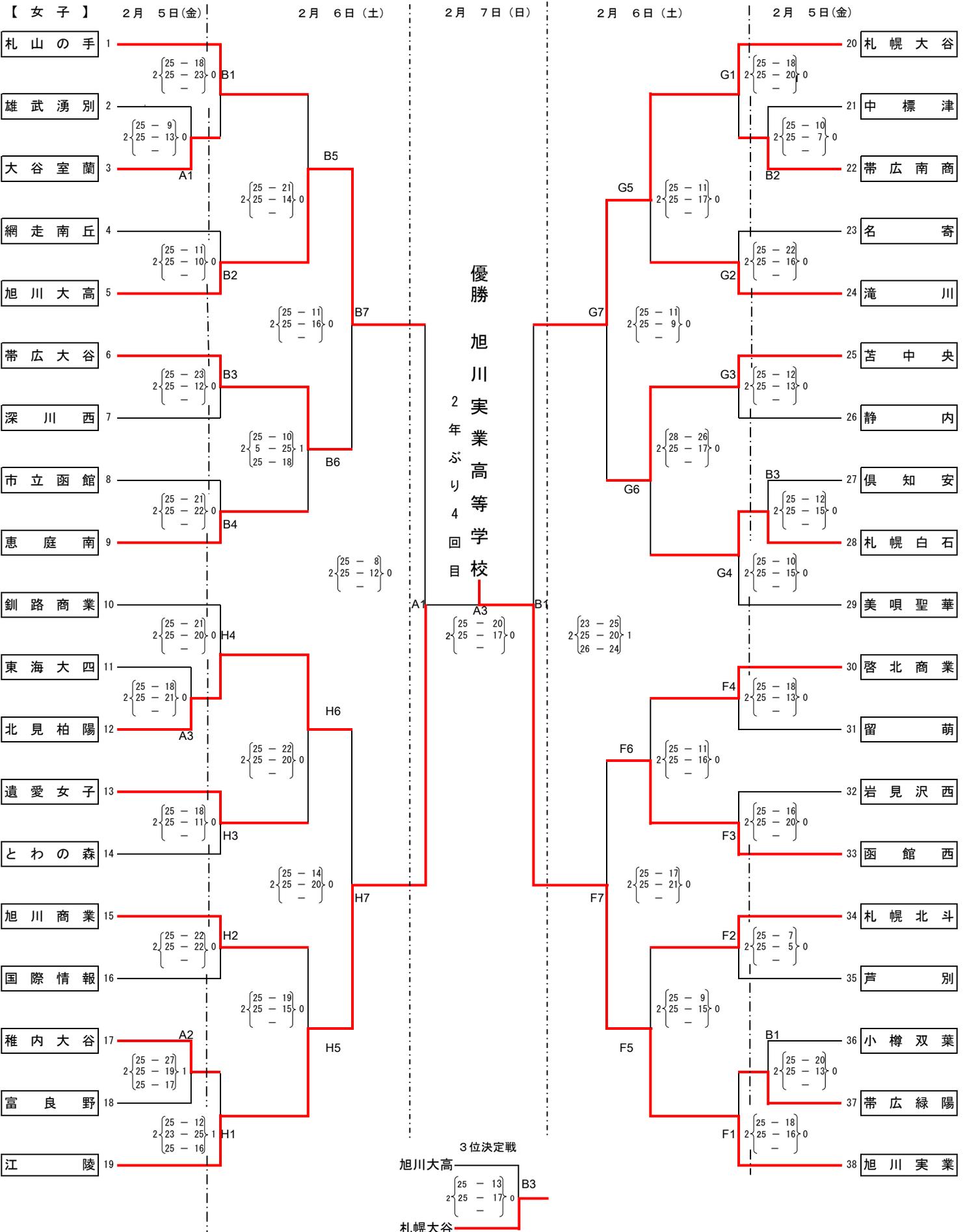
大会委員長 福原英典  
 競技委員長 丸山道博  
 審判委員長 笠羽泰範  
 総務委員長 菊池徹



第1位 尚志学園      第2位 東海大四      第3位 札幌藻岩      第4位 釧路工業

大会名 第11回北海道高等学校バレーボール新人大会  
 日時 平成28年2月5日(金)～2月7日(日)  
 会場 帯広市総合体育館 帯広大谷高等学校体育館

大会委員長 福原 英典  
 競技委員長 丸山 道博  
 審判委員長 笠羽 泰範  
 総務委員長 菊池 徹



第1位 旭川実業 第2位 江陵 第3位 札幌大谷 第4位 旭川大高

第11回 北海道高等学校バレーボール新人大会戦評  
平成28年2月7日(日) 帯広市総合体育館

女子 3位・4位決定戦

札幌大谷 2(25-13、25-17)0 旭川大高

第1セット目前半、札幌大谷がサーブやスパイクでリードを広げる。旭川大高も粘りのレシーブでつなぎ、4番のライトからの攻撃で応戦するが、札幌大谷の勢いを止められず、そのまま札幌大谷が先取する。第2セット序盤、互いにスパイクミスやサーブミスが出て一進一退の様相となる。札幌大谷の高さのあるブロックで旭川大高の攻撃が単調となり、ミスが出始める。中盤以降は札幌大谷の2番のクイックや4番のブロードなどの多彩な攻撃で勝利を収めた。(高橋 教之)

女子 決勝

旭川実業 2(25-20、25-17)0 江陵

第1セット立ち上がり、旭川実業5番のサーブが江陵のレシーブを崩し旭川実業が走り出す。その後、江陵が思うように攻撃ができずに更にリードを許す。江陵5番のブロック、4番のスパイク、9番のレシーブから相手のミスと呼び、江陵が逆転するが旭川実業はタイムアウトを取り、流れを切る。旭川実業5番のサーブが江陵のレシーブを乱し連続ポイントで旭川実業がリード。後半、旭川実業のセンター攻撃や、江陵のブロックが乱れで、旭川実業がリードを広げ、江陵が粘るも旭川実業が先取する。第2セットは、両チームともミスが続き、なかなか流れがつかめず膠着したまま試合が進む。しかし江陵の好レシーブからの攻撃が決まり江陵がリードする。旭川実業はタイムアウトを取る。両チームとも流れがつかみ切れない状況。その後旭川実業のスパイクが決まり始め、江陵もタイムアウトなどで流れを切ろうとしたが、旭川実業の2年ぶりの優勝が決まった。(鈴木 仁)

※旭川実業 2年ぶり4回目の優勝

男子 3位・4位決定戦

札幌藻岩 2(25-18、25-20)0 釧路工業

第1セット序盤、両チームのアタッカーがスパイクを決め、互角のスタートが始まるが、札幌藻岩の1番のジャンピングサーブで相手のレシーブを崩し、効果的にレフト6番とセンター3番のAクイックで6連続得点を挙げ、リードを広げていく。その後、釧路工業も4番・6番の両エースがスパイクを決めるものの連続得点には結び付けることができず、終盤へ。ここで、札幌藻岩の3枚ブロックが相手エースを止め、一気に勝負を決める。続く第2セットは、スタートに釧路工業の10番の連続ブロックでリズムをつくるが、すかさず札幌藻岩のセンター3番のAクイックとレフトからの1番のスパイクを交えた攻撃で応戦し、一気に4連続得点を取り同点にする。その後、釧路工業もレフト・バックから6番のスパイクでリードを広げるものの、札幌藻岩10番のジャンピングサーブと相手エースへの3枚のブロックで7連続得点を挙げ、一気に逆転する。終盤、釧路工業も意地を見せ、粘り強くレシーブでつなぎ6番のエースにつなぐが大事な場面でミスが連続出てしまい、ストレートで札幌藻岩が勝利する。(齊藤 好孝)

男子 決勝

尚志学園 2(32-30、25-21)0 東海大四

第1セット序盤、両チームに固さが見えミスが目立つが、その中で東海大四がブロックやレフトからのスパイクでリードする。尚志学園は徐々にペースをつかみ、8番のトスワーク・安定したサーブカットを中心にコンビバレーを展開し、点差を縮め尚志学園がリードしたところで東海大四がタイムアウトを取る。それからは、尚志学園・東海大四のレフトの打ち合いが繰り広げられデュースに突入するが、最後に8番のツーアタック、サービスエースが決まり、32-30で尚志学園が第1セットを先取した。第2セット、尚志学園の10番のサーブ、7番のクイックにより10-3で序盤を終える。東海大四はリベロ18番を中心としたサーブレシーブが全く安定せずセンターからの攻撃があまり使えない中、サイド陣が踏ん張り21-19と追い付かれてきたところで尚志学園がタイムアウトを取る。最後に東海大四のミス、6番のサービスエース、そしてキャプテン2番のアタックが決まり、25-21で第2セットを取り、尚志学園が勝利した。(藤田 運也)

※尚志学園 初優勝